

やっかないな地吹雪を利用して発電

誘導灯今春に商品化

弘大エネ研(青森)など改良

地吹雪の風力エネルギーを利用した「風力発電型自発光式視線誘導灯」を開発していた

弘前大学北日本新エネルギー研究所(青森市)と防雪柵メーカー「日本パーツセンター」(本社・金沢市)が、今春にも誘導灯を商品化する。2010年1〜3月に五所川原市で行った実証試験の結果を受けて、改良を加えた。

この誘導灯は、豪雪地帯の地吹雪発生時に

上で「迷惑を掛けたことを深くおわびしたい。今後はこのような事態が再び起こることのないよう適切に対応していきたい」と陳謝した。

県によると調査終了は2月上旬の見込み。

(本間善幸)



今春にも商品化される風力発電型の視線誘導灯。写真手前が誘導灯で、右側が風車—黒石市、県産業技術センター入り口

車の上の発電機から5基の発光ダイオード(LED)誘導灯に電力を供給する仕組み。誘導灯は風速2級から点灯し、低風速では点滅、風速8級から常に点灯する状態になる。発電機は黒石市の精密部品メーカー「UN

0(ウノ)」（宇野禎倫代表取締役）が製造。太陽光発電も可能で、無風時も夜間に警告点灯を点滅させることができる。

日本パーツセンターの担当者によると、実証試験の結果を受け、より光が強く見えるようにLEDの点灯方法を変更。吹雪でも雪が付着しないように、LEDに透明な覆いを付けたという。

同研究所と同社は21日、黒石市の県産業技術センター入り口近くに、風車2基と誘導灯10基を試験的に設置した。風車を開発した同研究所の南條宏肇学長特別補佐は「自然エネルギー利用を考えた場合、発電時のエネルギーロスの少なさを製造コストなどから、今回のような小さい風車と発電機が有利と分かった」と説明。日本パーツセンターの高橋誠専務は「地吹雪地帯の誘導灯以外にも、強風地

帯の気象情報板やサイン灯などにも応用できると語った。

(白鳥昌平)

◆八戸署が傷害容疑の男逮捕

八戸署は21日午後1時4分、傷害の疑いで八戸市下長1丁目、無職中畑俊三容疑者(66)を現行犯逮捕した。

逮捕容疑は同0時35分ごろ、同市下長4丁目のドラッグストア駐車場周辺で、階上町在住の男性会社役員(66)を背後から突き飛ばして転倒させた後、拳で数回殴るなどし、顔にけがを負わせた疑い。八戸署によると、両者に面識はなく、男性は「急に突進してきた

米国史研究

猿谷要氏死去

米国史研究で知られる東京女子大名誉教授の猿谷要(さかや)氏が3



谷要(さかや)氏が3

るや・かなめ)氏が3